

その他



- ・ 第73回創立記念日行事を開催
- ・ サステナブルキャンパス評価システム(ASCC)におけるプラチナ認証を取得
- ・ 大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が第8回女性技術者育成功労賞を受賞
- ・ 岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定
- ・ 第73回岐阜新聞大賞
- ・ 第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施

【国立大学法人東海国立大学機構】

- ・ 東海国立大学機構・ドワンゴ・KADOKAWAによる包括的提携協定の締結
- ・ 東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室主催 記念シンポジウムを開催
- ・ 国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2022を公表
- ・ 財務レポート2022を発行
- ・ 「サステナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門」を受賞
- ・ 東海国立大学機構統合報告書2022を発行
- ・ 「ヒューマングライコームプロジェクト」本格始動！
- ・ 富士通株式会社との包括的な産学連携に関する協定書を締結
- ・ 「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

第73回創立記念日行事を開催

【概要】

本学は令和4年6月1日で創立73周年を迎えたことから、講堂にて学内外の関係者など約50名が出席のもと、創立記念日行事を開催しました。

式典中、教育研究活動において特に顕著な業績を挙げ、また社会活動において高い評価を受け、本学の名誉を著しく高めた方を表彰する同窓会連合会会長表彰も行われました。今年度は、本学卒業後、パイロットインキ株式会社に入社し、消せるボールペン（フリクションボール）のインクの開発を行った中筋 憲一氏と、本学卒業後、広江国際特許商標事務所（現：弁理士法人 広江アソシエイツ特許事務所）を開設され、平成13年に特許庁長官表彰として知財功労賞を受賞し、平成23年には黄綬褒章を授与された廣江 武典氏が表彰されました。

また、学長報告では吉田和弘学長から、法人統合による効果や取組内容、研究力の強み、産学官連携の状況及び地域活性化における実績等について触れ、今後、地域の中核を担う大学として大きな役割を果たしていく決意が語られました。

本式典は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小しての開催となりました。そのため、式典の様子を岐阜大学公式ホームページにおいて、動画配信しておりますので、どうぞご視聴ください。



同窓会連合会会長表彰の様子



右：中筋 憲一 氏



右：廣江 武典 氏

サステイナブルキャンパス評価システム(ASSC)における プラチナ認証を取得

【概要】

岐阜大学は一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）が主催するサステイナブルキャンパス評価システム（ASSC）においてプラチナ認証を受け、令和4年7月16日（土）に行われた認定証交付式にて、朴恵淑代表理事より認定証が交付されました。



認定書

ASSCはサステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）が、「持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献する大学キャンパス」を促進する取組みの一環として導入した評価・認定制度で、「運営」「教育と研究」「環境」「地域社会」の各部門について分析評価するものです。2014年の本システム始動後、ASSCへの回答提出校（試行含む）は延べ103大学ありますが、プラチナ認定を受けたのは本学を含め4大学のみです。

本学は2018年度にゴールド認証を受けており、その際の分析評価をもとに継続的な改善を行った結果、総合得点率は2018年度の71.5%から91.6%に上がり、今回最上位のプラチナ認証を獲得することが出来ました。



交付式



学長報告

大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が 第8回女性技術者育成功労賞を受賞

【概要】

令和4年8月10日（水）に行われました第8回 女性技術者育成功労賞表彰式（主催：一般社団法人技術同友会）において、本学 大藪千穂 副学長（多様性・人権・図書館担当）が第8回女性技術者育成功労賞を受賞しました。

女性技術者育成功労賞は産業界における女性技術者の活躍の場の拡大を推進・支援するために、ダイバーシティ推進委員会活動の一環として、女性技術者(含む研究者)育成において顕著な成果を上げた個人(男女を問わず)の方々の功績をたたえる賞です。

このたびの受賞では、女性研究者の育成、支援活動を主導され、研究補助員配置、メンター制度、子育て・介護・在宅研究支援など、幅広い環境整備のほか、キャリアパス支援・リーダーシップ研修などの活動を展開したことが評価されました。

8月29日（月）には、大藪副学長が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。大藪副学長は「女性研究者の支援や、男女共同参画に関する出前講義やシンポジウムなど、これまでの岐阜大学の男女共同参画推進室の取組が評価されたと思っている」と話しました。吉田学長からは、「産業界がメインとなる賞だが、その中で大学関係者が受賞できたのは大きい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/8/31	岐阜	女性研究者の育成に貢献 大藪岐阜大副学長が全国功労賞 育児との両立制度を導入 ～ 大藪千穂 副学長 ～
2022/9/1	中日	女性研究者の育成支援たたえ功労賞 岐阜大副学長受賞 ～ 大藪千穂 副学長, 吉田和弘 学長 ～
2022/9/1	日刊工業	「第8回女性技術者育成功労賞」 庄司東京海洋大理事ら13人 技術同友会 ～ 大藪千穂 副学長 ～

岐阜大学が「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定

【概要】

令和5年2月10日（金）に行われました「令和4年度ぎふし共育・女性活躍企業認定式」において、本学が認定を受け、柴橋正直岐阜市長から表彰されました。

岐阜市では、令和元年度から企業による子育て支援や女性活躍の機運を高め、社会全体で男性の育児参画や女性活躍の推進を図ることを目的として、仕事と生活の両立や男女が共に働きやすい職場環境を作り、男性の主体的な育児参画により、夫婦で共に子育てを行う「共育」を推進する取り組みを行う企業や、女性とその個性と能力を十分に発揮して社会で活躍できるような取り組みを積極的に行う企業を「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定しています。

この度の審査では、本学がテレワークをはじめとする多様な働き方の推進、女性の活躍推進、男性の育児参画、ハラスメント対策などの取組を評価され、令和2年度から令和4年度までの3年間に引き続き、令和5年度から令和7年度の3年間について「共育企業部門」と「女性活躍企業部門」の両方で再び認定を受けました。

大藪副学長（多様性・人権・図書館担当）が2月13日（月）に学長室を訪問し、認定の報告を行いました。大藪副学長は、「これまでの本学の男女共同参画推進の取り組みが認められた。これからも女性研究者比率をあげるなど進めていきたい。」と話しました。吉田学長は、「男女がともに個性と能力を発揮し活躍できる大学環境を実現するために、男女共同参画推進の取り組みをより一層進める必要がある」と激励しました。

本学を運営する東海国立大学機構は令和4年12月に「DEIB宣言」(Diversity, Equity, Inclusion & Belonging)を行い、本学としても全ての教職員や学生が心地よく働き、学べる大学を目指しています。



ぎふし共育・女性活躍企業認定証



学長報告時の集合写真

第73回岐阜新聞大賞

【概要】

学識経験者らによる選考委員会（委員長：吉田和弘 岐阜大学長）で慎重に審査した結果、令和4年度「第73回岐阜新聞大賞」が5氏、1団体に贈呈され、学術部門では、本学副学長の杉山 誠 氏、名誉教授の村上 啓雄 氏が受賞しました。

贈呈式は令和5年2月11日（土）に岐阜放送テレビスタジオにて行われました。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/6	岐阜	「第73回岐阜新聞大賞」決まる ～ 学術部門 杉山誠副学長, 村上啓雄 名誉教授 ～
2023/1/30	岐阜	輝く功績 第73回岐阜新聞大賞受賞者 人獣共通の感染症研究 ～【学術部門】副学長 杉山誠氏～
2023/1/31	岐阜	輝く功績 第73回岐阜新聞大賞受賞者② ウイルスとの闘い 献身 ～【学術部門】村上啓雄 名誉教授～
2023/2/12	岐阜	さらなる飛躍, 貢献誓う 岐阜新聞大賞贈呈式 5氏1団体が喜び ～【学術部門】杉山誠 副学長, 村上啓雄 名誉教授, 選考委員長 吉田和弘 学長～

第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施

【概要】

令和5年3月3日（金）に、第1回岐阜大学フォト&アートコンテスト表彰式を実施しました。

この度、本学では、学生・教職員が大学での生活やキャンパス風景の中で日ごろから感じている魅力について、学内外へ広く発信することを目的として第1回岐阜大学フォト&アートコンテストを開催しました。本学所属の学生、教職員を対象に募集を行い、総計156点もの応募がありました。

厳正なる審査の結果、9点の作品が見事栄誉に輝きました。

表彰式では、杉山誠副学長から「岐阜大学には、大学に関する良い写真やアートを持っている人がたくさんいるので、それを発信していくことで、学内外のみなさまやステークホルダーに対して大学で活動している姿をお見せしていきたいと考えています。素敵な写真やアートをお送りいただきありがとうございます」と挨拶があり、中川寅学長補佐とともに表彰状と記念品を授与しました。

入選者を代表して最優秀賞を受賞した山田敏弘さんからは、「"冬はつとめて 雪の降りたるはいふべきにもあらず"、岐阜大学は朝早くに来るとこんなきれいな風景もあるんだということで、この風景を写真に収めました。最優秀賞ということうれしく思っています」とコメントをいただきました。

今後は、受賞作品の学内展示や引き続き本学の魅力発信に向けた第2回フォト&アートコンテスト（仮）の開催を予定しています。



最優秀賞を受賞した山田敏弘さん



学長報告時の集合写真

国立大学法人東海国立大学機構

(東海国立大学機構・ドワンゴ・KADOKAWAによる包括的提携協定の締結)

【概要】

東海国立大学機構は、この度、株式会社ドワンゴ、株式会社KADOKAWAと包括的提携協定を締結し、東海国立大学機構が掲げる※「デジタルユニバーシティ構想」に基づいて、高校生を中心とした次世代へのSTEAM教育や、社会人を中心とした専門性の高いリカレント教育を展開することを中心に、大学機能の拡大に共同で取り組むことで合意しました。

令和4年7月22日(金)には、文部科学省記者会見室において3者による記者会見を実施し、提携に至った背景や包括的提携における取組について、説明しました。

今回の合意に基づき、東海国立大学機構が注力している社会課題解決のための最先端の研究を中心とした講義コンテンツを、ドワンゴが運営支援しているN高・S高生をはじめ広く社会に提供し、先端技術の意義や重要性をリアルに感じてもらうことで、学習意欲の向上を図り、将来のイノベーションエコシステムを支える人材を育成します。一方で社会人向けには、動画配信事業に取り組んできたドワンゴが、東海国立大学機構が取り組んでいる社会人向けのデータサイエンティスト教育を支援することで、オンラインを活用したリカレント教育の効率的・効果的な運営方法を共同開発し、他大学や教育機関に利活用頂けるよう提供していきます。

※「デジタルユニバーシティ構想」とは、東海国立大学機構が掲げる大学変革構想で、デジタル技術を活用して、大学外の様々な人々が大学の資源にアクセスできる環境を構築し、公共財としての大学機能を大幅に拡張をすることを目指すものです。



記者会見の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/7/23	岐阜	最先端研究を動画配信 東海国立大機構、ドワンゴと協定 ～ 東海国立大学機構 ～
2022/7/23	中日	大学にもっとデジタルを 東海国立大機構×ドワンゴなど 先端講義配信など提携 ～ 東海国立大学機構 ～

国立大学法人東海国立大学機構

(東海国立大学機構カーボンニュートラル推進室主催 記念シンポジウムを開催)

【概要】

2022年9月6日(火)に東海国立大学機構 カーボンニュートラル推進室主催の記念シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは会場参加・オンライン参加合わせて250名を超える方にご参加いただきました。

本シンポジウムの第1部前半では当機構執行部による挨拶と文部科学大臣政務官 山本 左近 様よりご挨拶をいただきました。また、後半ではカーボンニュートラル推進室 西澤 泰彦 室長により、当機構内におけるカーボンニュートラル研究推進体制ならびに産学官連携推進案に関する説明が行われました。

第2部前半ではJST社会技術研究開発センター(RISTEX) センター長の小林 傳司 氏(大阪大学名誉教授)をお招きし、「総合知が求められる時代」と題してご講演いただきました。科学技術政策や社会の変遷、国内外での実際の取組を交え、なぜ「総合知」が求められるようになったか、カーボンニュートラルなどの社会的課題解決への貢献等、今後大学に期待される役割や、総合大学における文理融合を実現するための課題や解決のための指針についてご紹介いただきました。

第2部後半では小林 傳司 氏に当機構の教員4名と中部経済連合会 黒柳 考司 審議役を加えた6名により、「多様な知の協働による課題解決を目指して」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。異なる専門分野を持つ教員や産業界からの様々な目線で、産学官による協働を実現するために必要な事項について議論を行いました。

第3部では当機構のカーボンニュートラル関連の研究を行っている教員と会場参加者を交えた情報交換会を行いました。また、会場外にてデジタルサイネージによる関係教員の研究紹介ポスターの上映を行いました。



文部科学大臣政務官 山本 左近 様 ご挨拶



シンポジウムの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/9/7	中日	脱炭素研究組織の役割議論 名大, 岐大, 中経連がシンポジウム ～ 東海国立大学機構 ～

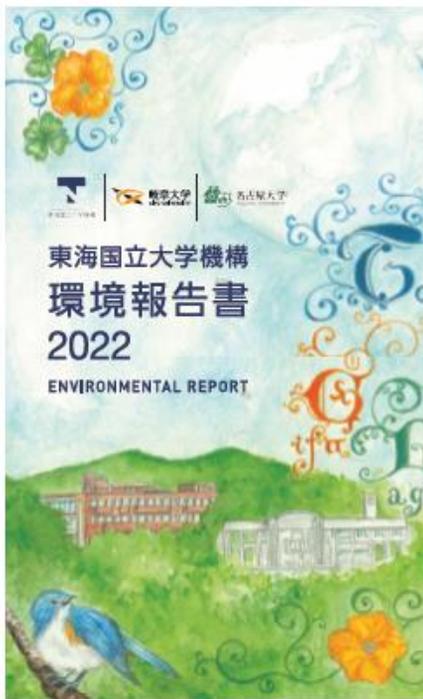
国立大学法人東海国立大学機構

(国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2022を公表)

【概要】

令和4年9月27日、国立大学法人東海国立大学機構の環境報告書2022を公表しました。

今年度の環境報告書では、機構長と2022年に新しく就任した岐阜大学学長と名古屋大学総長によるトップ鼎談としてカーボンニュートラルに向けた思いを語っていただいています。また第一号に引き続き、研究に関するインタビュー記事や学生対談など、多数の学生に編集に参加してもらうことで学生の相互交流進め、その他表紙作品の公募など新たな試みに多く挑戦し、より発展させた新たな1冊となりました。



※ 環境報告書2022下記のURLよりダウンロードできます。
https://www.thers.ac.jp/disclosure/upload/20220927_kankyo.pdf

国立大学法人東海国立大学機構 (財務レポート2022を発行)

【概要】

東海国立大学機構では、岐阜大学と名古屋大学の財務状態や経営状況を分かりやすく解説し、両大学の運営・活動を財務の観点から広くご理解いただくことを目的として、「財務レポート」を作成しています。

このたび、文部科学大臣により承認を受けた2021（令和3）事業年度財務諸表をもとに「財務レポート2022」を令和4年10月20日に発行しました。

国立大学法人 東海国立大学機構

財務レポート2022

事業年度：2021年4月1日～2022年3月31日

Tokai National Higher Education and Research System
Financial Report 2022



MAKE NEW STANDARDS.
東海国立大学機構

岐阜大学 名古屋大学

1. 国立大学法人東海国立大学機構について

●国立大学法人東海国立大学機構の創設について

世界と日本がつかない規模とスピードで激変していく中で、国立大学法人岐阜大学と国立大学法人名古屋大学は、法策は向けず教育研究機能も本格的に強化し、東海地域の持続的発展に一層貢献するため、2019年4月以降、一法人複数大学による機構設立に向けて協議を重ねてきました。

その後、関係省の賛成からの多大なるご支援により2019年5月24日に「学校教育法の一部を改正する法律」（令和元年法律第11号）が公布され、この法律が施行された2020年4月1日に国立大学法人岐阜大学と国立大学法人名古屋大学は統合し、国立大学法人東海国立大学機構が創設されました。

国立大学法人東海国立大学機構は、大学・産業界・地域の発展の好循環を創出する我が国の新しいモデル、国際的な競争力向上と地域創生への貢献を担うことを目指します。

岐阜大学と名古屋大学の強みのある分野を中心に、世界最高水準の研究を推進することによる知の中間的通用性のある質の高い教育の実現を目指します。

国立大学法人東海国立大学機構の基本情報

規模	岐阜大学	名古屋大学
学部	6学部	9学部
研究科	8研究科 (附属研究科併数：614)	13研究科 (附属研究科併数：1,090)
※ 2022年4月1日現在		
人数	岐阜大学	名古屋大学
学部学生	5,844人	9,525人
大学院学生	1,997人	6,309人
研究生等	163人	458人
附属学校生徒	344人	595人
※ 2022年5月1日現在		
教員数	岐阜大学	名古屋大学
教員	1,121人 (准教員202・非常勤110)	2,280人 (准教員1,705・非常勤975)
職員	2,008人 (准職員304・非常勤1,704)	5,270人 (准職員2,246・非常勤3,024)
※ 令和3年度事業報告書ベース（2022年5月1日現在）		
資産	岐阜大学	名古屋大学
固定資産	6,235,227万円(うち3,221,095万円が土地)	1,627,035万円(うち1,572,985万円が土地)
建物	328,180万円(うち1,354万円が敷地)	809,848万円(うち2,088万円が敷地)
※ 2022年5月1日現在		

投資料
入学料
寄附料 等

地域の方々
寄附金 等

県民の方々
助産報酬

企業の方々
委託研究費
共同研究費
寄附金 等

国
(国民の皆様の税金)
運営費交付金
補助金 等

入学金等

財務諸表・財務レポート等による説明責任

※ 財務レポート2022は下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/index.html>

国立大学法人東海国立大学機構

(サステイナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門 を受賞)

【概要】

令和4年12月3日(土)に行われた一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)の「第10回サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2022年次大会」(於三重大学)において、東海国立大学機構が「サステイナブルキャンパス賞2022 大学運営・地域連携部門」を受賞しました。

サステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)は、サステイナブルキャンパス構築の取組を推進し、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的として活動しており、「建築・設備部門」、「大学運営・地域連携部門」、「学生活動部門」の3部門において、優れたサステイナブルキャンパス構築に係る取組事例を表彰しています。

今回の受賞では、東海国立大学機構の環境報告書が「新たな国立大学のモデル『東海国立大学機構』として一体感のある初の環境報告書」として評価を受けました。表彰式での受賞講演では、林 瑠美子 名古屋大学環境安全衛生管理室准教授(環境報告書2022編集委員長)が「国立大学の法人統合に際して、環境報告書を単に合冊のように編集するのではなく、対談企画の盛り込みや、学生の活動参加、他大学との環境コミュニケーションなど、様々な視点を加えながら作り上げた。法人統合によるサステイナブルキャンパス構築のモデルケースとなっていきたい」と話しました。この講演により、受賞団体の中から優れたプレゼンテーションに贈られる「特別賞」も受賞しました。

東海国立大学機構は、今後も様々な環境活動を推進し、サステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



サステイナブルキャンパス賞
2022表彰状

国立大学法人東海国立大学機構

(東海国立大学機構統合報告書2022を発行)

【概要】

令和5年1月12日、東海国立大学機構は、統合報告書2022を発行しました。

本報告書では、東海国立大学機構が目指す姿、ビジョン・戦略について、ステークホルダーへのアカウントビリティの強化を図ることを目的に、分かりやすく伝えるように意識して作成しています。

また、一般の投資家の方にもご理解頂けるように国際統合報告フレームワークで必要とされる8つの内容要素を踏まえ、リスクと機会の分析、外部環境が事業運営に与える影響、事業戦略、アウトプット・アウトカムの一貫性を意識した価値創造ストーリーの構築を目指しました。



※ 統合報告書2022下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/news/2023/01/20230112-tougou.html>

国立大学法人東海国立大学機構

（「ヒューマン glycome プロジェクト」本格始動！）

【概要】

文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会の事前評価（報告）が令和4年11月に公表されました。その評価結果や留意点を踏まえ、東海国立大学機構（名古屋大学、岐阜大学）、自然科学研究機構ならびに創価大学が実施主体となり、生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として「ヒューマン glycome プロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」を始動することとなりました（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）。

糖鎖は、核酸やタンパク質と並び、生物の生命活動に欠かせない「第3の生命鎖」とされています。本プロジェクトでは、上記3機関が互いに連携し、日本の総力を挙げて糖鎖情報を世界に先駆けて網羅的に読み解くことを目指します。生命機能の解明をさらに推し進め、その成果が医療をはじめとしたさまざまな研究分野で応用されることが期待されます。

令和5年2月16日（木）には、文部科学省記者会見室において、3機関による記者会見を実施しました。記者会見では、3機関の長が本プロジェクトへの意気込みと決意を述べるとともに、本プロジェクトに寄せられた全世界の研究者コミュニティからの期待の声も紹介しました。

※ 当日の様子は以下のページからご覧いただけます。

<https://igcore.thers.ac.jp/news/468-2.html>



記者会見の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/17	岐阜	「糖鎖」解明 国内で連携 認知症の予防 鍵握る分子 岐阜大など新プロジェクト 新年度から本格始動～ヒューマン glycome プロジェクト～
2023/2/17	中日	認知症や糖尿病、がん予防への光 名大、岐阜大など世界に先駆け10年計画 「糖鎖」解析本格始動へ～ヒューマン glycome プロジェクト～
2023/2/17	日刊工業	「糖鎖」情報解読で連携 東海国立大機構など 研究基盤確立目指す～ヒューマン glycome プロジェクト～

国立大学法人東海国立大学機構

(富士通株式会社との包括的な産学連携に関する協定書を締結)

【概要】

国立大学法人東海国立大学機構は、富士通株式会社と、SDGsやSociety5.0の実現に向け、地域に密着した健康と医療の好循環モデルの構築によるウェルビーイング社会の創生や、人類の活動圏が宇宙に広がる近未来を見据えた深宇宙活動における未知の課題を解明する課題探索や技術開発などに関する包括協定を2023年2月24日に締結しました。

東海国立大学機構の健康医療ライフデザイン統合研究教育拠点(以下、C-REX)が持つライフデザインの研究実績および東海圏の医療機関や自治体との連携力と、富士通のAIなどの先進テクノロジーや富士通Japan 株式会社の電子カルテシステムなどから取得するヘルスケアデータを活用した患者中心のエコシステム形成により、ヘルスケア分野における地域課題の解決とサービスの高度化を進め、ウェルビーイング社会の創生を目指します。

宇宙活動における課題探索や技術開発では、名古屋大学宇宙地球環境研究所(以下、ISEE)が持つ世界トップクラスの宇宙天気予測モデルや衛星および地上観測データベースと、富士通のスーパーコンピュータによる大規模シミュレーション技術やAIを用いたデータ解析技術により、宇宙天気予報シミュレーションの高度化や高速化とともに、予報を支える人材の育成や制度化に取り組んでいきます。



両者は、本包括協定に基づき、互いの技術やサービス、地域のフィールドやネットワークを活用した活動を深化させ、テクノロジーとデータを高度に連携させた人を中心とする持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/2/25	中日	東海国立大学機構×富士通 スパコンやAI活用 技術開発へ包括協定
2023/2/26	中日	富士通と協定結び宇宙研究など促進 東海国立大学機構
2023/2/27	日刊工業	健康・宇宙研究 包括協定結ぶ 東海国立大機構・富士通
2023/2/28	日本経済	東海国立大学機構と富士通 医療・宇宙分野で提携 データ分析技術生かす

国立大学法人東海国立大学機構 (「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞)

【概要】

国立大学法人東海国立大学機構（以下、「東海機構」）は、令和5年3月1日に「第31回地球環境大賞 文部科学大臣賞」を受賞しました。

地球環境大賞は、1992年（平成4年）に「産業の発展と地球環境との共生」を旨として創設された、フジサンケイグループが主催する顕彰制度です。地球温暖化の防止、循環型社会の実現に寄与する新技術・新製品の開発、環境保全活動・事業の促進、21世紀の社会システムの探求、地球環境に対する保全意識の一段の向上を目的としており、経済産業省・環境省・文部科学省・国土交通省・農林水産省・総務省・日本経済団体連合会及び日本商工会議所が後援しています。

今回の東海機構の受賞は、東海機構のスタートアップビジョンの一つ「社会・産業の課題解決を通じた国際社会と地域創生への貢献」で示している「東海地域の大学・産業界・地域発展の好循環モデル（TOKAI-PRACTISS）」構想を推進するために、カーボンニュートラル推進室を設立し、カーボンニュートラル実現を目指していること、また、「地球の危機」に対して、岐阜大学及び名古屋大学の「総合知」で、世界最高水準の最先端研究や文理融合・超学際による課題解決に取り組み、次世代の新たな価値創造に貢献する数々の研究を進めていることが評価されました。なお、授賞式は、令和5年4月17日に明治記念館にて開催される予定です。

